

立原えりか氏講演会 「童話作家アンデルセンとデンマーク」

参加者募集中

童話作家で、今年、日本・デンマーク外交関係樹立 150 周年親善大使の立原えりか氏による講演に参加して、アンデルセンとデンマークの魅力にふれてみませんか。



[日 時] 6月29日(木) 19時～20時30分
[場 所] 東大島文化センター 第1研修室
[定 員] 50名
[参加費] 1,500円(資料代含む)
[申 込] 要事前申し込み。電話・窓口で。先着順。

【立原えりかプロフィール】

童話作家、H.C. アンデルセン専門家、日本・デンマーク外交関係樹立 150周年親善大使。『人魚のくつ』で、1959年児童文学者協会新人賞受賞。1961年『でかでか人とちびちび人』で、講談社児童文学新人賞受賞。1983年創設「アンデルセンのメルヘン大賞」の選考委員長を第1回目より務めている。著書多数。



アンデルセン童話より
「はたかのおうさま」
立原えりか/文
(フレーベル館・二〇一六年)

東大島文化センターは H29 7月1日 土 より 改修工事に伴い休館いたします。



東大島文化センターは、江東区長期計画に基づき、各施設及び建物の大規模改修工事（電気・空調・給排水設備等）のため休館いたします。施設をご利用の皆さまには大変ご不便をおかけいたしますが、より快適で効率的な施設づくりを目指していきますのでご理解、ご協力のほど、お願い申し上げます。

「東大島文化センターニュース」は休館中、お休みいたします。次号はH30.6月に発行予定です。



公益財団法人
江東区文化コミュニティ財団
江東区東大島文化センター
電話 03(3681)6331

〒136-0072 江東区大島 8-33-9 第1・3月曜日休館(2017.6月末まで)
〒136-0072 江東区大島 4-5-1(総合区民センター内) 第2・4月曜日休館(2017.7月～)
※休館日が国民の祝日にあたる場合は開館します。



東大島文化センター ニュース



- ①「水辺への招待展」ご案内
- ②水辺コラム/river情報
- ③「ぶらり小名木川」/囲碁大会予告
- ④公開講座参加者募集

今年は中川船番所資料館で開催します!! 夏の自由研究はこれだ!

第12回 「水辺」への 招待展

8/3(木) ~ 8/9(水)

~なつやすみ自由研究
旧・中川周辺のいきもの~

9:00 ~ 17:00
※8/7(月)は休館日です。

地域の川・旧中川に生息する魚類や甲殻類などを、飼育水槽やパネルで展示します。日々の観察で夏休みの自由研究の課題としてはいかがでしょうか?



昨年の展示の様子

8/5(土)6(日) はワークショップを開催します!

8/5(土) ①旧中川ハゼ釣り教室

【時 間】10:00 ~ 12:00 【参加費】1,000円
【対 象】小学生 20名 ※4年生以下は保護者同伴

②旧中川の生物観察

【時 間】14:30 ~ 16:00 【参加費】500円
【対 象】小学生 15名 ※4年生以下は保護者同伴

①②ともに

【場 所】旧中川・川の駅周辺
【講 師】寺田浩之(KOKOPELLI+ 代表)
【申 込】7/9(日)9時~先着順受付※電話のみ
東大島文化センター 03-3681-6331

8/6(日) ③旧中川の生き物観察 アクアボトルを作ろう

【時 間】10:00 ~ 16:00
【費 用】1,000円
【場 所】中川船番所資料館 会議室
【対 象】どなたでも※当日先着順、材料がなくなり次第終了。
【講 師】寺田浩之(KOKOPELLI+ 代表)ほか

みんな
きてね!



水辺への招待

夏はもうそこまで来ている。そう感じる日がとても多くなってきました。日本には夏の前に必ず梅雨がくるため暫く憂鬱な時間を過ごさなければなりません。その後、本格的な夏を迎えると海や川など、水辺に遊びに行きたくくなります。

海や川という、遠出をしなくてはいけないとつい思い込んでしまいがちですが、まずは目の前にある水辺に足を運んでみてください。目の前の水辺とは、このあたりで言うと、旧中川にあたると思います。実は毎日、目にしてはいるような川でも四季により様々な表情を見せ、私たちを楽しませてくれます。きつと水辺で懸命に生きる命を感じることができるはず。これから夏にかけての温かい時期は特にマハゼを中心とした魚たちが浅場でエサを摂る様子が見られます。じつと様子を見てみると、色々な種類のハゼが現れて、エサを取り合ったり、つつき合ったり、様々な行動が観察できます。時には50センチを超えるボラの群れ、スズキにクロダイ、アカエイなども姿を見せます。

水族館へ行けばたくさん種類の魚を見ることができますが、こうした自然の中での魚の行動はなかなか見ることができません。

最近では、旧中川は真夏でもそこそこ透明度の高い水が流れていて、一年を通して水中がよく観察できます。まさにそういった自然観察にはぴったりの川になりました。実は、旧中川は都内の都市河川の中でかなり自然観察に向いている環境なのです。

しかし、せっかく環境が良くなっても、川へ自然を求めて来てくれる方は少なくなってしまっているように感じます。私たちKOKOPELLI+も、引き続き多くの方に旧中川の魅力をお伝えできるよう様々な企画を提供させていただきたいと思えます。

こうした夏の企画として、東大島文化センターと協力して、船番所資料館を会場として水辺への招待展を開催します。一週間の間、船番所資料館の会議室がミニ水族館になるのです。

少しでも多くの方に水辺の自然環境へ興味を持っていただけることを願って、魅力的な展示に仕上げたいと思えます。こちらにもぜひ遊びに来て下さい。



江東区で River 体験 mini 情報

本格的な夏に向け、これからどんどん暑くなってまいります。今年の夏は身近で体験できる「川」体験で、夏の暑さを乗り切りましょう。

◆ リバーツアー

「河川から見た江東区」をリバーガイド認定者が屋形船で案内する小さな船旅。次回は10月、11月を予定。有料。問合せ 03-3681-6331(東大島文化センター)

◆ 和船乗船体験

江東区で所有する和船はその操船の伝統技術保存を目的に「和船友の会」の活動に使用され、その協力により無料で乗船することができます。問合せ:03-3647-2538(江東区土木部河川公園課工務係)

◆ カヤック体験

豊洲川河川敷公園内に毎年5～10月末まで開設されます。手ぶらで参加できるカヤック体験です。有料。問合せ:03-5875-2319(公園管理事務所)

◆ 横十間川親水公園ボート場

横十間川親水公園で体験できます。手漕ぎボート、足漕ぎボートの2種類から選択。有料。問合せ:03-5683-5581(江東区土木部施設保全課水辺と緑の事務所)



小名木川リバーガイド倶楽部
会員 山村 浩二郎

猿江神社と重願寺の山門

小名木川に架かる小松橋の北側約250mのところに猿江神社があります。この神社は西暦985～1078年平安時代中期約1000年前、源頼義が奥州征伐の頃この附近の入江に勇々しき戦士の屍がただよいき、不思議にもその屍より毎夜光明を發し、村人はこの屍を丁寧に葬った。

武士の鎧に源頼義の臣「猿藤太(ましろのとうた)」と記してあり、また懐中より難き経文が一巻出てきた。よって村人は「猿藤太」の頭文字と入江の「江」をとって猿江稻荷と尊称し、近郷近在の守護神として村落の敬神の地として仰ぎ奉り、豊作祈願、病氣平癒、悪病退散等のこの地の氏神として祀り、又それより地名をも「猿江村」と称し、現在に至っている。正に猿江の地名はここより発祥した。(神社内に発祥の碑あり。)

尚、当時の村落の氏神社である猿江神社は古来より「天照大御神」「宇迦之御魂神」を御祭神としていたが、武人「猿藤太」の御霊をも合わせ加え代々お祀りしています。1000年前からの神社が現存していることは驚きである。

次に猿江神社のすぐ近くに重願寺というお寺があります(猿江1-11-15)。重願寺は日本橋馬喰町に創立し、寛政7年(1795年)222年前に現在の地猿江に移転して来ました。同時期に奈良薬師寺に建立された「講堂(教場)」に使用されていた用材を頂戴した事となり、山門の柱にその由緒ある材木(樹齢400年)を用いることとなりました。今回大和の郷(奈良)にあったその歴史ある建物が宮大工牧野重義棟梁(足立区在住)によって1本1本彫刻をほどこし「山門」という形で500km離れた江戸(東京)の地に蘇った。

なぜどういふ縁で奈良薬師寺の用材が頂戴できたかという、当時の息子さんが17歳の時奈良薬師寺の故高田好胤管長に師事、僧侶となられました。現在は大谷徹装という名で、奈良薬師寺、東京別院(五反田)等の執事として活躍され、全国法話のため忙しくされています。年に数回東京別院(五反田)で法話をなさいますが、大変理解しやすく、人生の教訓にもなります。一度機会があったらお聞きになるのも良いと思います。



猿江神社



重願寺山門

江東 団 碁 大会



団体戦

10/7(土)

個人戦

10/8(日)

白と黒の熱き戦い

総合区民センターにて
開催予定!



今年も開催「江東団碁大会」。東大島文化センターは改修工事期間中のため、総合区民センターにて行います。詳細は「カルチャーナビ KOTO8月号」をご覧ください。